

在宅・介護場面・施設での 感染対策の提案

2020/4/29版

安房在宅ケアネットワーク



安房在宅ケアネットワーク
2020/04/29

本資料が想定している介護・診療場面

- 通所介護・通所リハビリ
- 訪問介護
- 小規模多機能型居宅介護
- 入所施設（特養、老健、有料、サ高住、ケアハウスなど）
- 訪問看護
- 訪問診療

本資料の注意点

- 本資料は、新型コロナウイルス感染症の流行期における在宅・介護施設での感染対策、特に介護現場での感染予防策の参考資料として作成しました。
- 本資料では、全ての基本となる標準予防策を主に扱っています。地域の感染流行状況に応じ、追加の対策を考慮する必要があります。
- 感染流行のフェーズや物品不足、人員不足など各施設の状況に応じ、実際の対策の内容は個別で検討してください。
- 感染予防策は、不十分な対策により感染を拡大する可能性がある一方、過剰に行うことでPPEを浪費したり、不適切な予防策により感染を広げたり、必要なサービスが提供できない状況になったりすることが起こり得ます。
- 地域の大事な資源である介護を守るために、また、利用者、スタッフを守るために、参考にいただければ幸いです。

基本の考え方

- 常に標準予防策を行うことが最も重要
 - 「1ケア1手洗い」「ケアの前後で手指衛生」
 - 全ての人の血液、体液、分泌物、嘔吐物、排泄物、創傷皮膚、粘膜等は、直接触れると感染する可能性があると考え、曝露しないために必要に応じて手袋、ガウン、エプロン、フェイスシールドなどを用いる
- 加えて、環境調整を行い3密を出来る限り避ける
 - 換気の悪い密閉空間を避ける
 - 多数が集まる密集場所を避ける
 - 間近で会話や発声をする密集場面を避ける

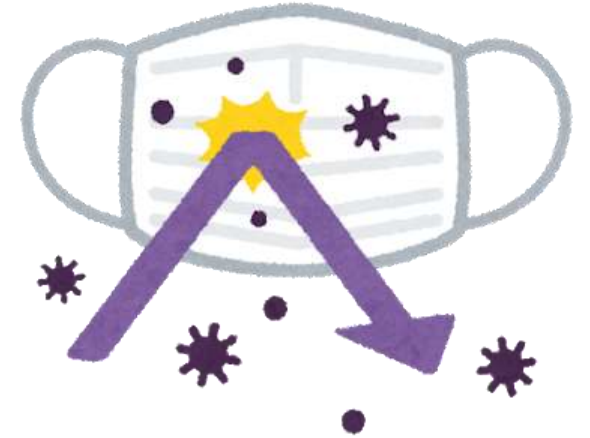
なぜ手指衛生が最も大事なのか？

- 手は、身体の中でも特別な場所
- 色々なものに触れる機会が多く、手が感染の媒体になる
- ケアの前後で手指衛生を行うことで、感染の伝播を大幅に抑制することが知られている
- 日本の介護施設での手指衛生遵守率は34%程度という報告がある Takahashi I, et al. *Environ Health Prev Med.* 2009;14(6):336-344.
- 施設職員の手指衛生率を向上することは、感染対策として非常に重要



手指衛生の注意点

- マスクの外面は汚染されている
- マスクの外面に触れたら手指衛生を行う
(すなわち、原則として触れないようにする)
- 手すり、ドアノブ、パソコンのキーボードなど
共用部分から感染拡大しやすい
- こまめな手指衛生に加え、1日1回の環境消毒
を行い、共用部分になるべく触れずに済む工夫
を考える



濃厚接触者の定義

(国立感染症研究所 積極的疫学調査実施要領2020/4/20改訂版より)

- 患者の発症2日前から隔離される日までの間に、以下の1つでも満たした場合。
 - 患者と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
 - **適切な感染防護無しに**患者を診察、看護若しくは介護していた者
 - 患者の気道分泌液もしくは体液等の**汚染物質に直接触れた**可能性が高い者
 - 手で触れることの出来る距離（目安として1メートル）で、**必要な感染予防策なしで**、患者と15分以上の接触があった者（周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する）。

常に適切な感染予防策を行っていれば、濃厚接触者となる可能性は低い

本資料では、職員は基本マスク着用としている



安房在宅ケアネットワーク
2020/04/29

非感染者・無症状者へのケア (介護場面別)

動作介助（移動、移乗の介助）

- 必ず行うこと
 - 標準予防策
 - 利用者にふれる前後で手指衛生
- 使用するPPE
 - マスク
 - 手袋は基本不要だが、介助の前後で手指衛生を行う



食事介助

- 必ず行うこと
 - 標準予防策
 - 配膳、食事介助の前後で手指衛生
 - 複数の人に並行して関わる場合、対応するたびに手指衛生を行う
 - 利用者本人の手指衛生
 - 食事の前後でテーブルを拭く
- 使用するPPE
 - マスク
 - 手袋は不要、前後での手指衛生を行う
 - むせが激しい方の介助時、フェイスシールドや使い捨てエプロンを使用しても良い
- その他の注意点
 - できる限り正面でなく側方から介助を行う
 - 食器は個人用にし、適切な洗浄・消毒を行う



側方からの介助で
飛沫を浴びにくくなる



歯磨き・口腔ケア



- 必ず行うこと
 - 標準予防策
 - 手指衛生、使い捨て手袋
 - 唾液が飛ぶような状況が予想される場合は、ゴーグル、エプロン
 - ガーグルベースンの洗浄、消毒
- 使用するPPE
 - マスク
 - 使い捨て手袋
 - しぶきが飛ぶような状況ではフェイスシールド、使い捨てエプロンを使用
- その他の注意点
 - 可能なら利用者自身に実施してもらう
 - 利用者同士が対面して行わないように注意する
 - ガーグルベースンをできれば本人用にする

清拭・更衣

- 必ず行うこと
 - 標準予防策
 - 触れる前後で手指衛生
- 使用するPPE
 - マスク
 - 使い捨て手袋（清拭）
 - 陰部洗浄を行う場合、汚染された衣服を扱う場合は使い捨てエプロン



入浴介助

- 必ず行うこと
 - 標準予防策
 - 接触前後の手洗い、手指衛生
- 使用するPPE
 - 使い捨て手袋
 - 防水エプロン
- その他の注意点
 - 床、シャワーチェア、脱衣室の清掃は毎日実施する



排泄介助（トイレ介助、オムツ交換）

- トイレ介助、おむつ交換
 - 標準予防策、前後の手洗い、手指衛生
 - 利用者本人の前後での手洗い、手指衛生
- 使用するPPE
 - マスク
 - 使い捨て手袋
 - 使い捨てエプロン
 - 下痢時や汚染物に触れそうな時はガウン
- その他の注意点
 - 排泄後のドアノブに触れずに済む工夫をする
 - ドアノブや取手は毎日消毒を行う



排泄後の尿便器の処理

- 尿便器の処理（ポータブルトイレ、尿瓶など）
 - 標準予防策
 - 前後での手指衛生
- 使用するPPE
 - 使い捨て手袋
 - 使い捨てエプロン



清掃、リネン交換

- 必ず行うこと
 - 標準予防策
 - 前後での手指衛生
 - 血液・体液で汚染されたものに触れない
- 使用するPPE
 - マスク
 - 使い捨て手袋
 - 使い捨てエプロン
 - 汚染物を扱う場合はガウン
 - 飛沫が飛ぶ状況ではフェイスシールドまたはゴーグル



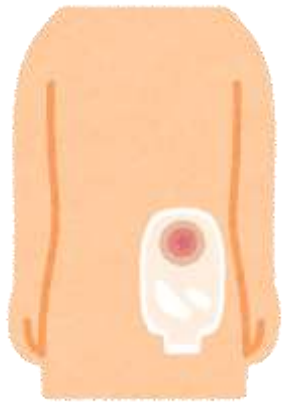
吸引|

- 必ず行うこと
 - 標準予防策
 - 前後での手指衛生
- 使用するPPE
 - マスク
 - 使い捨て手袋
 - 使い捨てエプロン
 - フェイスシールドまたはゴーグル
- 注意すること
 - エアロゾル発生しやすい手技であり、有症状者、濃厚接触者、蔓延期などは個別に追加の予防策を検討する



創処置、ドレーン、ストマのケア

- 必ず行うこと
 - 標準予防策
 - 前後での手指衛生
- 使用するPPE
 - マスク
 - 使い捨て手袋
 - 使い捨てエプロン、汚染が強い状況ではガウン
 - 飛沫が飛散する状況では、フェイスシールドまたはゴーグル



自宅訪問の注意点

- 必ず行うこと
 - 標準予防策
 - 前後での手指衛生
 - サージカルマスクを着用
- できれば行うこと
 - 訪問前に電話で本人・家族の症状の確認をする
 - 訪問前、訪問中に換気を行う
 - 利用者・患者にマスクをしてもらう
 - 訪問時間をなるべく短くする



通所サービスの注意点

- 必ず行うこと
 - 標準予防策
 - 送迎時、入室時の手指衛生、車内の清掃・消毒
 - 利用前の症状確認と検温
- できれば行うこと
 - 利用者同士の間隔を 2 m 程度あける
 - 席は対面形式でなくスクール形式にする
 - 大きな声を出すようなイベントは控える
 - サービス自体の必要性を見直し接触機会を減らす



入所サービスの注意点

- 必ず行うこと
 - 標準予防策
 - 手指衛生
 - 利用者の体調確認
 - 外部からの接触（面会など）は最小限にする
- できれば行うこと
 - 利用者同士の接触をなるべく少なくする
 - サービス提供者の人数が少なくなるようグループに分けて対応する
 - トイレなどの共用部分を使う人数を少なくする



	処置ケア場面	手袋	マスク	エプロン	ガウン	ゴーグルまたはフェイスシールド	
動作介助	重(体位変換など広範囲接触)		○				皮膚疾患等がなければ感染リスクは高くない
	軽(歩行介助など部分的接触)		○				
食事介助	在宅調理		○				手指衛生はしっかり行う
	摂食介助		○				
清潔ケア	歯磨き・口腔ケア	○	○	△		△	しぶきが飛ぶような場合はゴーグルも 汚染されていなければエプロンは不要 防水エプロン
	陰部洗浄	○	○	○	△	△	
	清拭	○	○	△			
	入浴	○	○	○			
排泄	排泄介助	○	○	○			感染性を疑う下痢の場合はガウン
	オムツ交換(通常)	○	○	○	△		
	オムツ交換(下痢時)	○	○		○		
	使用後の尿便器の処理	○	○	○	△		
清掃	環境整備	○	○	○	△	△	しぶきが飛ぶ場合はゴーグルも
	血液体液で汚染場所の清掃	○	○	○	△	△	
	リネン交換	○	○	○			
	汚染リネンの交換	○	○		○		
	吐物の処理	○	○	○	○	△	
検査	採血	○	○				
	血糖測定	○	○				
処置	気管切開部のケア	○	○	△		△	しぶきの飛散がある場合
	気管内吸引(開放型)	○	○	○		○	
	気管内吸引(閉鎖型)	○	○	△		△	
	創処置	○	○	○			
	創洗浄	○	○	○	△	○	
	ろう孔・ドレーンのケア	○	○	○		△	
	ストマのケア	○	○	○			

○ 必ず着用
△ 状況により感染リスクが高くなる時着用
空白欄 基本的には着用不要

**ケア場面別 使用するPPEのまとめ
(標準予防策)**

